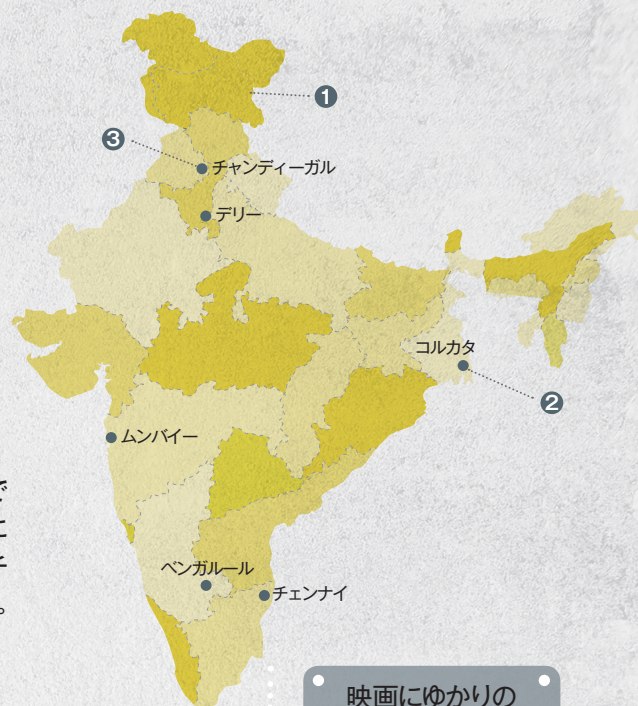


シネマで 世界旅行

Vol.2

Destination >>

インド
India



20年で変貌を遂げた 新世代のインド映画

日本では1998年に公開され、大ヒットした『ムトゥ！踊るマハラジャ』で人生初のインド映画を体験した人もいることだろう。なが〜い上映時間の中に散りばめられた「えっ？ここで歌う？踊る？」というインドテイストにカルチャーショックを覚えたものだ。あれから20年、インド映画は変貌を遂げている。

本当にやりたいことは何か？ 真の成功とは何か？

『きっと、うまくいく』 製作年：2009年 上映時間：170分



「IIT（インド工科大学）卒業」という学歴は、人口13億人のインドで成功するためのマストアイテムらしい。だからこそ、どの親も自分たちの生活はどれほど切り詰めようとも、子どもにすべてをかけて期待するが、その裏にはそれぞれに苦悩する子どもの姿がある。「自分がやりたいこと」を封印し、親の望む道を進むことが果たして幸せなのか？『3 Idiots (3バカ)』の原題通りコメディタッチでありながら、人生について大いに考えさせられる作品である。監督：ラージクマール・ヒラニ 出演：アーミル・カーン、カリナ・カプール、R・マダーヴァン 発売元・販売元：ハビネット DVD価格：¥4,200+税 ©Vidhu Vinod Chopra Production 2009. All rights reserved

歌わない。踊らない。「新世代のインド映画」という表現にふさわしい作品

『女神は二度微笑む』 製作年：2012年 上映時間：123分

極上のサスペンスに、これまでのインド映画のイメージを大きく覆された。ストーリーはコルカタの地下鉄で起きた無差別テロ事件から始まる。そのシーンには地下鉄サリン事件を彷彿とさせられたが、そこは本筋ではない。行方不明の夫を身重の妻が捜索するという展開に、ぐいぐい引き込まれていく。また、この作品に限らないが、インド映画では使用言語に現地語と英語が織り交ぜられているところも、歴史的背景や現地の状況が垣間見えて興味深い。

監督：スジョイ・ゴーシュ 出演：ヴィディヤー・バーラン、パラムブラト・チャテルジー、ナワーズ・ブディーン・シッディーキー 発売元・販売元：ブロードウェイ DVD価格：¥3,800+税



1958年に東京で開催されたアジア競技大会のシーンでは「百獣の王」を目指すあの人も出演

『ミルカ』 製作年：2013年 上映時間：153分



平和な社会に暮らしている私は、今日と同じ明日が続くことを前提に日々を過ごし、人生設計を考えている。それに対し、戦争やクーデターがいつ起きるかわからない社会で生きる人々は、今日という日をめいっぱい生きることしか考えられないのではないかと。「安定した日々の中でも、めいっぱい生きる姿勢を忘れていけない」——故郷を追われ、家族を虐殺されながらも、たくましく生き抜き、インドの英雄となった主人公ミルカの姿に、改めてそう気づかされた。

監督：ラケーシュ・オームブラカ・シュ・メーラ 出演：ファルハーン・アクタル、ソナム・カプール、ディヴィヤ・ダッタ、アート・マリク 発売元：日活 販売元：東宝 DVD価格：¥3,800+税

映画にゆかりの
インドの観光地



① パンゴン湖

標高4000m超の高地にあるパンゴン湖は塩分を含み、あざやかな青い湖面が神秘的な雰囲気を醸し出す。604kmのうちの3分の1がインド、残りは中国に属し、入域許可が必要。



② ヴィクトリア記念堂

かつてカルカッタと呼ばれたコルカタは、イギリス領インド帝国時代、首都機能を担っていた。ヴィクトリア女王を記念して造られたこの建物では、インドとコルカタの歴史を知ることができる。



③ キャピトル・コンプレックス

ル・コルビジエにより設計された都市、チャンディーガル。キャピトル・コンプレックスには、彼の作品でもある行政機関の建物が集中している。

(執筆/ライター 更田 沙良)